

## 6. 進捗状況・今後の展望

先学期の最終発表を終えてから、本調査として2名のSFC生にアンケートを行った。授業も始まり、友人にある機会も増えたので10月中にサンプル数を増やし、11月中に統計処理し、12・1月ですべての考察を行い卒論を執筆していく予定である。

## 7. 参考文献・Webサイト

- 1) 永淵道彦、中村万里、播磨桂子、荻野千砂子、安保博史『音声言語とコミュニケーション』2001.4 双文社出版
- 2) アン・カープ『「声」の秘密』2008.10 株式会社 草思社
- 3) 福島英 『声のしくみ 「人を惹きつけつる声」のメカニズム』 2011.4 株式会社 ヤマハミュージックメディア
- 4) レイ・D・ケント、チャールズ・リード 『音声学の音響分析』1996.5 海文堂出版社
- 5) 中西雅之 『なぜあの人とは話が通じないのか？ 非・論理コミュニケーション』2005.6 光文社
- 6) 解説/沢田博、鶴田知佳子、高井真知子 翻訳/池村千秋、津吉翼、藤原朝子、村井裕美『オバマ大統領演説』 コスモピア編集部 コスモピア株式会社出版 2009.2
- 7) 鈴木松美 『日本人の声』 洋泉社 2003.3
- 8) 酒井隆 『アンケート調査の進め方』 日本経済新聞出版 2012年1月
- 9) 白谷秀一、朴相権、内田龍史 『新版 実践はじめての社会調査—テーマ選びから報告まで—』 自治体研究社 2009年5月
- 10) 山田一成 『聞き方の技術 リサーチのための調査票作成ガイド』 日本経済新聞出版社 2010年2月
- 8) 首相官邸ホームページ <http://www.kantei.go.jp/> (閲覧日 2012年7月1日)
- 9) youtube オバマ大統領就任演説動画  
<http://www.youtube.com/watch?v=vp1iCII4xVc>  
[http://www.youtube.com/watch?v=Sj--KbsAC\\_Y&feature=related](http://www.youtube.com/watch?v=Sj--KbsAC_Y&feature=related) (閲覧日 2012年7月1日)

構想発表

環境情報学部 4 年

葛 綾乃

1. テーマ

政治演説におけるノンバーバルコミュニケーションの日米比較

2. 問題提起・内容

政治家が自らの政策や思想を直接国民に伝達できる場面は限られている。ほとんどはマスメディアによって報道され国民に知らさる。そしてそれに加えて、政治家が発言したこと全てが報道されるわけではなく、マスメディアによって掻い摘んだ報道となるのがほとんどである。その点で、目の前に聴衆がいて、全編が報道される政治演説にはその政治家のすべての思いが表現されており、私たち国民に伝わるものだと考える。

しかしながら、表現方法は様々で、国によって使われるコミュニケーション方法は異なり、国民がそのコミュニケーションから受ける印象も国ごとに違う。例えば、欧米ではジェスチャーがたくさん使われるという印象があるが、それが日本でも受け入れられるとは限らない。つまり、ジェスチャーを多用しているからと言っていい演説とされるわけではない。日本には日本なりの、アメリカではアメリカなりのノンバーバルコミュニケーションがあり、それぞれがそれぞれに聞き手に受け取られている。その差異の発生がなぜ起こるのかを追究するのが本研究の目的である。

今学期は今まで比較研究した結果をもとにアンケート調査を進めていく。

3. 研究対象

- ・日本にて2011年9月13日に行われた野田前内閣総理大臣所信表明演説
- ・米国にて2009年1月20日に行われたオバマ大統領就任演説

4. 研究手法

- ・上に挙げた動画を使い客観的に比較。
- ・文献などを用いて考察を進める。
- ・アンケート調査。

5. 仮説

メディアなどでは、ジェスチャーをあまり使わない日本人が否定的に言われることも多いが、実際に日本人が多用されるジェスチャーを見た時に受ける印象が良いものは一概には言えないと思う。また、その代わりに声調などを巧みに使っていたほうが良い印象を受ける場合もあると考える。